

問合わせや予約取消し

再燃した
水俣病問題

困った旅館、漁協

チツソ
支社 事情説明にヤツキ

水俣病問題に対する国の最終結論を前に、最近水俣病に関したいるんなウツサが水俣市内に流れて、県外から「水俣の魚は大丈夫か」といった問い合わせや、観光旅館の手約取り消しなどのケースも出て関係者は対策に頭を痛めている。七日は湯中にあるチツソ水俣支社関係者が地元の関係方面を回り事情説明に当たった。

水俣病問題は発生してから十数年間にわたりいろんな対策や説が

出され大きな社会問題として取り上げられてきたが、近く原因や対策など国の最終結論を前に再びクローズ・アップされ、最近とくに一部に水俣病の原因とみられているチツソ水俣工場の有機水銀を含む廃液が現在も海に流されているような情報が流れている。

このような情勢の中で最近現わ

れてきたのが発生当時のような市民の不安。とくに魚屋さんの店先で「この魚は食べて大丈夫か」と

心配して聞いただす主婦（浜町M魚屋店主の話）や海のサチ料理を売りものにする湯の児温泉旅館にも「水俣病が最近問題になつてい

るような心配はないか」といった県外観光客から問い合わせや、「水俣病問題が解決するまで旅行は見合わせたい」と予約取り消しのケースも出ている。

また市内のある商店から県外へ送った魚の干物を受け取った人からも「水俣病は心配ないのか、最

近の水俣病に関する現地の詳しい事情を知らせてほしい」という手紙まで舞い込んでいる。

一方、事態を心配した関係者たちは一般市民にはもちろん県外の人たちにも「水俣病については以前の問題が再燃されているだけで、再発生の様相もなく心配はない」と誤解の解消策に躍起となっている現状。

問題の焦点にあるチツソ支社では今後の事態を心配して七日は地元の漁協や魚屋、観光旅館街などを回り、「絶対に心配はない」と事態收拾に乗り出し、今後各関係方面にも機会あることに誤解をといてもらう方向でPR面での協力を頼んだ。